

第92回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2017年2月13日(月) 14時～17時

兼題「追儼」「鬼やらひ」

- 川井素山 ○梅東風に絵馬の把鳴る眞澄空
しばし見ぬ猫現はれる追儼かな
紅梅の早や散り染めし石畳
「松陰神社にて」
志士の墓一花もなく冴返る
- 保井寶正 ○朧夜と潮騒和して音を編む
追儼の夜鬼も福をも闇に溶け
黒土に椿こぼれてなほ気品
面倒を楽しみにして春仕事
- 後藤克彦 ○冬の蠅一匹だけの宴淋し
仰ぐ人なきまま散るや寒桜
福は内隣家気にする小声かな
ふらふらの初蝶の宿冬菜畑
- 佐久間喬 ○七転び七十路のスキー耐へゐたる
露天の湯野猿来たぞと投げる雪
マンションの窓豆パラリ鬼やらひ
息荒き老スキーヤー笑顔かな
- 丸山酔宵子 ○校庭に響くチャイムや春隣
早咲きの梅に染まる耶蘇の島
街灯に浮かぶ早咲く椿かな
窓全開声を潜めて鬼やらい
- 菊地崇之 ○婿養子 嵌^{はま}る鬼役追儼の日
寒明けや注連縄締めて恵比須顔
立春に家を行でたや籠りたや
梅香る園にママ友昼下がり
- 吉田啓悟 ○ボロ市の仏像吾を選びけり
剪定のすぎし枝より朝日さす
目にみえぬ鬼をもとめて鬼やらひ
酒だけを買ひに出る夜春を待つ

- 青木英林 ○猫柳揺るる心や老ひの恋
猫の恋迷子となりし遠出かな
鬼やらひ善男善女押し合へり
梅園や猿回し来て賑やかに
- 牧野里山 ○朝日受け路地の中にも芽吹あり
陽だまりやうたた寝するは我一人
新年会年々変わる友の顔
暗がりに小さな声で鬼やらひ
- 佐久間たか子 ○邪気さりし星あおあおと追儼かな
深き笑み地藏の福に梅香る
わがとし
我歳を忘れていたし福は内
読経に響いて香る水仙花
- 山本草風 ○雪形も異常気象で変はりゆく
成人日日本に二つ世代観る
豆撒ひて季節払ふも雨落ちる
小正月妻を労り米を研ぐ
- 金森純女 ○春の駒跳ねては親を振り返る
料峭や夜空に火の粉まき散らし
捨ておきし鉢に水仙芽を出しぬ
鬼やらいパックの豆では届かざり
- 佐伯兵庫 ○懐炉して歩く薄着の美魔女かな
靴音に耳を澄ませる冬の夜
節分や孫から隠す豆は外
朝日さす水辺に並ぶ冬の鳥
- 渡辺鯨波 ○引きこもる児の凄まじき鬼やらい
狐火を見た夜タロットカード引く
多言語の電機の街や冬日和
モンローも泊まりしホテル冬薔薇
- 澁谷瑠璃 ○こころね心根を沈めてひもかがみ覗く氷面鏡
地図もなくシュプール辿り会ひにゆく
豆食ひて己の中の鬼やらふ
白鳥で方向音痴に生まれたり

次回「萩句会」

日時 2017年3月13日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『壺焼き』一句 当季雑詠三句 計四句